低学年　第１学年の授業づくり

研究授業前の児童の姿

○登場人物の行動を中心に想像を広げながら読み、考える学習活動を積み重ねることができている。

●伝え合いにおいて、相手の考えを聞こうとする意識がまだ十分でない。

研究授業
12 月 3 日（水）

単元名　楽しんだり、想像を広げたりしながら読む
教材名　「たぬきの糸車」（光村図書　１年）

授業の工夫

1　単元を通して、登場人物の気持ちを日記の形で表現させることによって読みを深める。

2　話し手が聞いてもらう心地よさを感じ、また聞き手がより意識して話を聞くことができるように、「お返しの言葉」を入れたペア学習を進める。

1　「たぬき日記」を取り入れた読み取りの工夫

授業の始めに、登場人物の行動を追っていきながら、分かりにくい言葉は全体で確認し、さらに、その場面の時・場・状況を把握していった。登場人物の気持ちをより深く考えさせる手だてとして、各場面で登場人物の行動や気持ちが分かるところにサイドラインを引かせた。

また、毎時間の読みを振り返る手段として、その場面の登場人物の気持ちになりきり「たぬき日記」を書いた。書き出しをできるだけ登場人物の行動の事実を中心としたことで、児童の多様な考えを引き出せるようにした。

2　「お返しの言葉」を取り入れたペア学習の工夫

ペアで交流する時には、以下のような聞き手側の返す言葉の例を示し、意見を聞いてもらうことの心地よさを感じられるように促していった。

また授業が進む中で、児童から出てきた言葉も加えていった。

ペアでのやりとり（お返しの言葉）

「いいね。」　「おなじだね。」　「おなじかんがえだよ。」

「たしかに、まねしてみよう。」　「すこしにているよ。」

研究授業成果と課題

☆「お返しの言葉」を活用することにより、聞く意識が高まり、話し手は聞いてもらえる心地よさを感じることができた。

★サイドラインを文ではなく、言葉に着目して引かせる経験を積ませる必要がある。

★読み深める中心をしぼって課題提示をする必要がある。教材分析をする際に全体交流での補助発問を想定することで、児童の考えを効率よく集約し、まとめられるようにする。

研究成果報告会授業のポイント

単元名　ちがいをかんがえてよもう
教材名　「どうぶつの赤ちゃん」（光村図書　１年）

「お返しの言葉」を取り入れたペアでの複数回の交流や、ハンドサインを用いた全体交流を通して、多くの考えを知り、自分の考えをまとめる授業。